

# 令和7年度中南米・北米移住者子弟研修受入事業

## (結果概要)

福島県生活環境部国際課

### 1 目的

福島から中南米・北米に移住した者の子弟が、県内での研修や交流を通じて自らのルーツや本県への理解を深めることにより、本県と母国の架け橋として、将来、母国の福島県人会の中核を担い活躍できる人材を育成する。

また、滞在期間中、本県の魅力や東日本大震災及び原発事故からの復興状況を実際に見てもらい、帰国後に母国において積極的かつ正確な情報発信を行ってもらおう。

### 2 実施日

令和8年1月14日(水)～1月22日(木) 9日間

### 3 参加者

(1) 研修生4名(ペルー1名、ブラジル1名、ドミニカ共和国1名、米国1名)

- ・ペルー福島県人会 1名
- ・ブラジル福島県人会 1名
- ・ドミニカ福島県人会 1名
- ・シアトル福島県人会 1名

(2) 同行者 ※一部日程のみ

- ・県費留学生 2名(ペルー1名、ブラジル1名)
- ・県国際課職員

### 4 研修内容

- (1) 県内視察(復興状況視察、一般視察)
- (2) 知事表敬/福島県海外移住家族会会長表敬
- (3) 日本文化体験
- (4) ホームステイ
- (5) その他

## 5 研修日程

日程	内容	宿泊先
1月14日(水)	成田空港着	(横浜市)
1月15日(木)	JICA 海外移住資料館 横浜市視察	(福島市)
1月16日(金)	福島の現況説明 福島県環境創造センター 奥の松酒造 紙漉き体験(道の駅安達(和紙伝承館))	(ホームステイ)
1月17日(土)	ホームステイ	(ホームステイ)
1月18日(日)	ホームステイ	(会津若松市)
1月19日(月)	鶴ヶ城 会津藩校日新館 野口英世記念館 福島県海外移住家族会表敬 知事表敬	(福島市)
1月20日(火)	意見交換会 只見線乗車 浜焼き体験	(相馬市)
1月21日(水)	福島ロボットテストフィールド 震災遺構浪江町立請戸小学校 東日本大震災・原子力災害伝承館 ふたば未来学園 Jヴィレッジ	(楡葉町)
1月22日(木)	いちご狩り 成田空港より離日	

## 研修 1 日目 1 月 1 4 日 (水)

### ■ 成田空港(入国)

- ・研修生が各国から成田空港に到着した。
- ・長時間のフライトや時差により疲れが見えたものの、研修生たちはすぐに打ち解け、これからの研修を楽しみにしている様子がうかがえた。

## 研修 2 日目 1 月 1 5 日 (木)

### ■ JICA 移住資料館視察

- ・横浜市にある海外移住資料館を視察し、日系移民の歴史等を学び、自身の祖先に思いをはせていた。
- ・横浜市内(横浜赤レンガ倉庫、横浜中華街)を視察した。



JICA 海外移住資料館見学の様子

## 研修 3 日目 1 月 1 6 日 (金)

### ■ 福島県の現況説明(福島県環境創造センター)

- ・県の国際交流員から福島県の概要について英語で説明。本県の魅力や東日本大震災及び原発事故からの復興の状況について学んだ。

## ■ 福島県環境創造センター視察

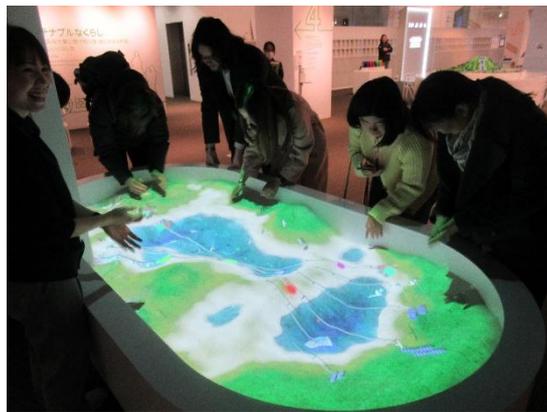
- ・震災及び原発事故当時の状況説明や、県の環境への取組について、センター職員から説明を受けた。研修生たちは、展示に興味津々の様子だった。



福島第一原子力発電所の模型を見ながら  
事故当時の状況について説明を受ける



事故当時と現在の状況を比較



展示を楽しんでいる様子

## ■ 奥の松酒造

- ・二本松市の奥の松酒造を訪問し、工場の見学を行った。
- ・工場の視察後には、日本酒の試飲も行い、味の違いを楽しんでいた。それぞれ、好みの日本酒などを購入していた。



施設見学の様子

### ■道の駅安達 二本松市和紙伝承館(紙漉き体験)

- ・1000年以上もの歴史がある上川崎和紙の手漉き体験を行った。
- ・型に和紙の材料を流し込み、はがきを作成していた。



和紙の原料を流し込み、思い思いのはがきを作成

研修 4 日目、5 日目      1 月 1 7 日 ( 土 )、1 8 日 ( 日 )

### ■ホームステイ

- ・親戚宅やボランティア宅でホームステイ。
- ・ホストファミリーと一緒に様々な日本文化に触れる経験をした。

研修 6 日目      1 月 1 9 日 ( 月 )

### ■鶴ヶ城

- ・会津若松のシンボルともなっている鶴ヶ城を見学。
- ・ガイドの説明を興味深く聞きながら敷地内を散策し、会津の奥深い歴史や文化に触れていた。



鶴ヶ城見学の様子

## ■会津藩校日新館

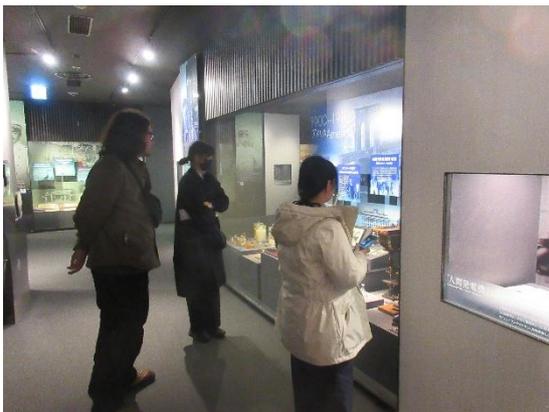
- ・日本文化体験として、赤べこの絵付けを実施。
- ・スタッフ案内のもと会津藩士の子弟たちが学んだ学校を見学した。



赤べこの絵付けに挑戦

## ■野口英世記念館

- ・記念館についての概要を聞いた後、野口英世博士の生家などを見学。
- ・南米や北米で活動した野口博士の生い立ちや功績について学んだ。



野口英世記念館見学の様子

## ■福島県海外移住家族会会長表敬

- ・渡辺義信福島県海外移住家族会会長を表敬訪問し、福島県を訪れた感想等について懇談した。
- ・会長からは、「福島県はいつまでも皆さんのふるさとであります」との言葉があった。



福島県海外移住家族会会長表敬の様子

## ■知事表敬

- ・内堀雅雄知事を表敬訪問し、研修生から研修で印象に残ったことなどを紹介した。
- ・知事からは、歓迎の挨拶や、研修で経験したことを家族や友人にも伝えてほしいとの言葉があった。



知事表敬の様子

研修 7 日目      1 月 2 0 日 (火)

## ■意見交換会

- ・県庁において国際課職員と意見交換会を実施。
- ・日本の生活や文化を体験したり、日本に住む親族と会ったりと、ホームステイで貴重な経験ができたとの声が多かった。
- ・本事業に参加することで、実際に福島に来て人々の生活や現状を直接見ることができたといった意見をもらうとともに、帰国後はこの研修で学んだ本県の魅力や現状を発信し、若い世代をもっと県人会に呼び込みたいとのと意気込みを語ってくれた。



意見交換会の様子

### ■只見線乗車

- ・「世界一ロマンティックな鉄道」とも呼ばれる只見線に乗車した。
- ・研修生たちは、鉄道から見える雪景色に夢中になっていた。



只見線乗車の様子

### ■松川浦 浜焼き体験

- ・相馬市松川浦で浜焼きを体験。新鮮な海産物のバーベキューに舌鼓を打った。



浜焼きの様子



松川浦旅館の若旦那たちと記念撮影

研修 8 日目      1 月 2 1 日（水）

### ■福島ロボットテストフィールド

- ・浜通り地域の震災・原発事故からの復興と新産業創出のため整備された施設である、福島ロボットテストフィールドを見学。
- ・設立の経緯や現在の取組について説明を受け、被災地での新産業の創出について理解を深めた。



福島ロボットテストフィールド見学の様子

### ■震災遺構浪江町立請戸小学校

- ・震災遺構として2021年10月に一般公開が開始された請戸小学校を訪問した。
- ・津波の被害に遭った震災当時の姿がそのまま保存されている校舎を興味深く見学していた。



震災遺構浪江町立請戸小学校見学の様子

### ■東日本大震災・原子力災害伝承館

- ・未曾有の複合災害が発生した当時の状況や県民の思いを展示物等を通じて学ぶとともに、原子力災害に伴う住民避難の経過や除染による環境回復の取組等への理解を深めた。



スタッフから展示物の説明を受ける

復興祈念公園の整備状況を視察

## ■ふたば未来学園

- ・ふたば未来学園で高校生との交流を行った。
- ・在校生に学校内を案内してもらい、書道体験を通じて交流を深めていた。



校内を案内してもらう



書道体験を通じて高校生と交流



## ■Jヴィレッジ

- ・本県復興のシンボルであるJヴィレッジを訪問。施設見学を通じながら、震災当時の様子や復興までの道のりについて理解を深めた。



Jヴィレッジの取組について説明を受ける

研修 9 日目

1 月 22 日（木）

### ■いちご狩り

- ・いわき市内でいちご狩り体験を行った。
- ・研修最終日となり研修生に疲れが見えたが、種類の違ういちごの食べ比べを楽しんでいた。



いちご狩りの様子

### ■成田空港(帰国)

- ・研修生たちはバスの中で9日間行動を共にした仲間たちと最後の別れを惜しみ、成田空港から母国へと戻っていった。

## 結びに

9日間の研修を通じて、研修生が福島県の魅力や現状について理解を深めるとともに、同じ福島県にルーツを持つ在外県人会の若手同士が交流する絶好の機会となり、研修生の間でもかけがえのない絆が生まれた。

研修生には、今回の研修を通じて自分たちが実際に福島県へ足を運び、自ら見て、聞いて、感じたことを母国に戻り積極的に発信するとともに、現地県人会と本県との架け橋として今後も活躍していくことを期待したい。